

# 社会調査士

2026年3月19日

## 1 資格の趣旨

「社会調査士」は、世論や市場動向・社会事象等をとらえる調査能力をもつ人に対して「一般社団法人 社会調査協会」が認定する資格である。社会の実態を把握するための調査について専門的な知識と実施の技能があることを証明するもので、卒業後の進路において調査や分析、企画職・マーケティング職などに就く上で有利になることが期待されている。国内の多くの大学、さまざまな学部や学科において導入されているが、本学部においてもこの資格の対応科目が設置されている。

資格は大学卒業時に資格対応科目の単位をすべて修得していれば申請できるが、それまでに一定の単位を修得することで「キャンディデイト」認定を在学中に申請することもでき、就職活動に際してアピールすることが可能である。資格についての詳細は、社会情報教育研究センターのホームページ(<https://portal.rikkyo.ac.jp/csi>)を参照すること。

## 2 資格取得の申請方法・場所

資格取得のための試験等は特になく、大学卒業までに資格対応科目のすべてを修得すること、学部を卒業することで資格取得が可能になる。資格申請にあたっては、指定科目の単位修得を証明する書類と、審査・認定手数料を一定の期間内に揃えることが必要である。在学中の「キャンディデイト」認定についても同様であるが、卒業時に「キャンディデイト」から正規の社会調査士資格への変更申請をする必要がある。

資格取得の申請や相談については、池袋キャンパス8号館にある「社会情報教育研究センター」(<https://portal.rikkyo.ac.jp/csi>)で受け付けている。なお、立教大学の学生は「キャンディデイト」認定の申請手数料に関して、一般の大学に比べて減額を受けられる。(今年度の申請期間や具体的な手順などについての詳細は、各自、社会情報研究センターのHPを確認すること。)

## 3 資格取得に必要な科目

資格取得のためには、社会調査協会が設定したカテゴリA～Gに対応する科目の単位をすべて修得することが必須である。ただし、カテゴリE、Fについてはいずれか1科目の単位を修得すればよい。本学部が開講する資格対応科目は以下の通りである。

社会調査士カリキュラム	経済学部対応科目	単位数	開講学期	配当年次	備考
A 基本的事項	統計調査論 1	2	春学期	2～4	登録方法：抽選登録
B 調査設計と実施方法	統計調査論 2	2	秋学期	2～4	

C 基本的な資料とデータ分析	統計学 1	2	春学期	1～4	登録方法：自動登録（再履修の場合は科目コード登録）
D 統計学	統計学 2	2	秋学期	1～4	
E 多変量解析	計量経済学 1	2	春学期	2～4	登録方法：科目コード登録 2024 年度以降入学者 〔データ分析入門 1〕 〔データ分析入門 2〕 先修
	計量経済学 2	2	秋学期	2～4	2023 年度以前入学者 〔情報処理入門 1〕 〔情報処理入門 2〕 先修
F 質的な調査と分析	なし				
G 社会調査を実際に経験し学習する科目	ゼミナール A (一部)	4	通年	2～3	登録方法：「その他」登録
	調査実習	4	通年	2～4	登録方法：抽選登録 2024 年度以降入学者 〔データ分析入門 1〕 〔データ分析入門 2〕 先修 2023 年度以前入学者 〔情報処理入門 1〕 〔情報処理入門 2〕 先修

※ゼミナール A は一部のクラスのみが対応するので掲示等注意すること。

※カテゴリ E については、2017 年度までは同一年度の計量経済学 1・2 の両方を修得しないと資格申請できない。2018 年度以降は、計量経済学 1・2 のどちらかを修得すればよい。

※経済学部ではカテゴリ F は開講されていない。

※カテゴリ G についてはどちらか 1 科目の単位を修得すればよい。

資格取得自体は、学部指定の科目の代わりに、同カテゴリに指定されている他学部科目およ

び全学共通科目を、学部で修得した他のカテゴリーの科目と組み合わせて申請することも可能である。ただし、卒業に必要な学部の単位と混同しないように注意が必要である。

全学共通科目の社会調査士資格対応科目は以下の通りである。

- A 科目 社会調査入門, Introduction to the Social Survey
- B 科目 社会調査の技法
- C 科目 データ分析入門, Introduction to Statistics1
- D 科目 データの科学, Introduction to Statistics2
- E 科目 多変量解析入門, Introduction to Multivariate Analysis

#### 4 統計力の確認

社会調査士の資格は、大学での調査・統計関係科目のバランスのとれた履修を促すところにあり、どの程度の実力が付いたかは認定科目の成績によって判断される。科目成績のほか、学外者を含めた試験の基準によって調査・統計の実力を判断したい場合は、日本統計学会公式認定の「統計検定」を受験することを推奨する。統計検定ホームページ(<https://www.toukei-kentei.jp/>)

#### 統計検定

- 1 級 実社会の様々な分野でのデータ解析を遂行する統計専門力
- 準1 級 統計学の活用力—実社会の課題に対する適切な手法の活用力
- 2 級 大学で学ぶ、基礎統計学の知識と問題解決力
- 3 級 データの分析において重要な概念を身に付け、身近な問題に活かす力
- 4 級 データや表・グラフ、確率に関する基本的な知識と具体的な文脈の中での活用力

統計調査士 統計に関する基本的知識と利活用

専門統計調査士 調査の実施に関わる専門的知識の修得とデータの利活用

#### データサイエンス基礎 (DS 基礎)

具体的なデータセットをコンピュータ上に提示して、目的に応じて、解析手法を選択し、表計算ソフト Excel によるデータの前処理から解析の実践、出力から必要な情報を適切に読み取る一連の能力

#### データサイエンス発展 (DS 発展)

数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに準拠した内容

#### データサイエンスエキスパート (DS エキスパート)

数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの応用基礎レベルのモデルカリキュラムを含む内容